

大船渡湾内観測結果(No.4)

“今月の話題”

湾内の水温は12～22℃台であり、例年よりも1℃ほど高くなっています。二枚貝等の餌の量を示すクロロフィルは、先月と同程度であり、表層や水深10m付近で高くなっています。湾口付近の海底は、溶存酸素が低下傾向です。

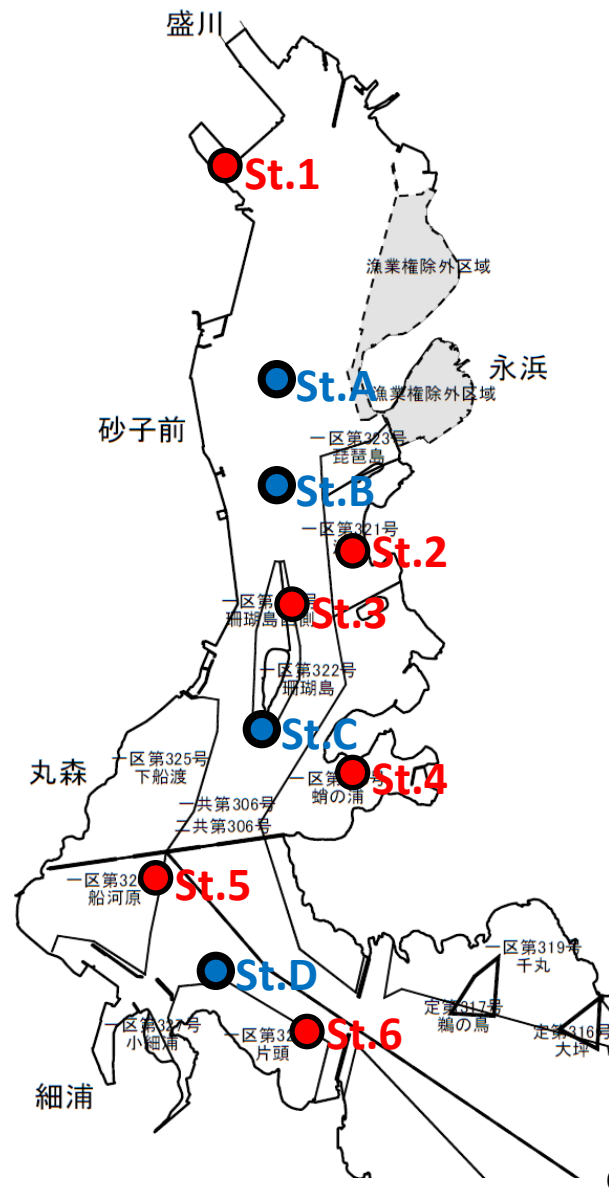
7月18日に行った大船渡湾内観測結果をお知らせします。

透明度は4.0～10.0mであり、平成18年度から平成29年度の平均値と比べて、+0.7～+2.9mの範囲内でした。

水温は水深2.5mが18.3～19.0℃、水深10mが16.5～16.9℃でした。平成18年度から平成29年度の平均値と比べて、水深2.5mが+1.0～+1.5℃、水深10mが+0.8～+1.5℃の範囲内でした。

海域名:大船渡湾
 調査担当:水産技術センター、大船渡水産振興センター

観測点(St.)		1	2	3	4	5	6
観測年月日		平成30年7月18日					
観測時刻		11:48	12:07	11:23	10:59	10:41	10:12
天候		晴					
気温(°C)		27.0					
風向		SSE					
風力		1					
水深(m)		8.6	23.7	26.6	18.6	24.9	36.8
透明度(m)		4.0	8.0	7.0	9.0	9.0	10.0
水色		11	9	10	10	9	8
水温(°C)	表層0m	22.4	22.8	22.0	23.5	22.6	22.2
	水深2.5m	19.0	18.5	18.3	18.6	18.7	18.8
	水深10m	-	16.7	16.9	16.7	16.5	16.7
	海底上1m	16.4	13.9	13.4	15.1	13.9	12.2
塩分	表層0m	28.3	30.0	30.1	30.4	30.3	31.1
	水深2.5m	32.7	33.6	33.6	33.7	33.5	33.4
	水深10m	-	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9
	海底上1m	33.5	33.7	33.6	33.8	33.8	33.7
溶存酸素飽和度(%)	表層0m	126.5	121.5	115.6	114.3	112.8	110.7
	水深2.5m	109.4	101.1	106.3	98.4	105.2	109.1
	水深10m	-	104.9	106.1	102.8	108.9	109.4
	海底上1m	79.1	79.5	62.6	91.6	83.3	44.2
クロロフィル(Chl-Flu.(ppb)) ※観測機器の測定値	表層0m	3.6	2.9	1.5	2.2	1.9	1.0
	水深2.5m	2.3	0.9	1.4	0.7	0.8	0.9
	水深10m	-	2.4	2.2	2.3	1.4	1.4
	海底上1m	1.1	0.7	0.5	1.0	0.8	0.5



©岩手県（漁業権連絡図）

図1 大船渡湾調査定点図

※St.1からSt.6において透明度の観測や表層0mから海底上1mの水質を観測した。
 St.AからSt.Dにおいて表層0mから水深10mの水質を観測した。

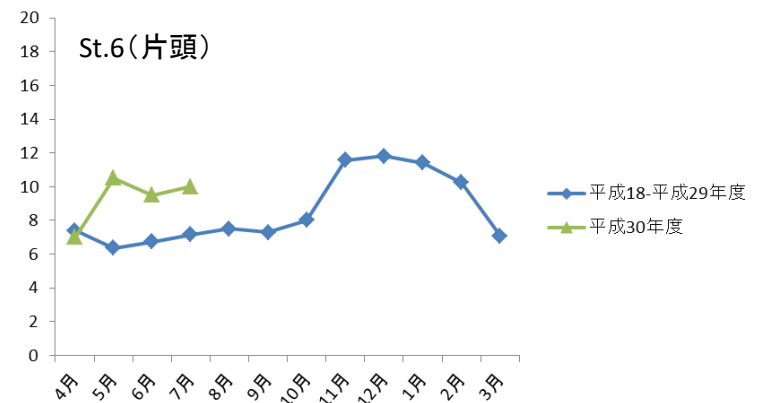
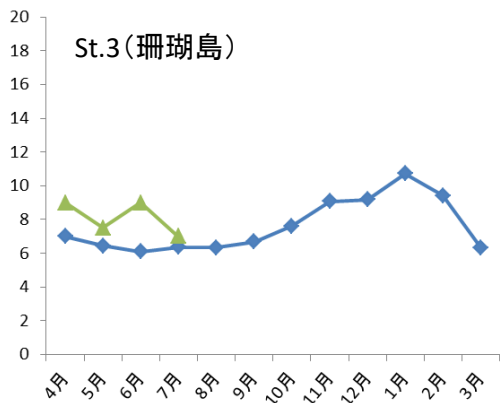
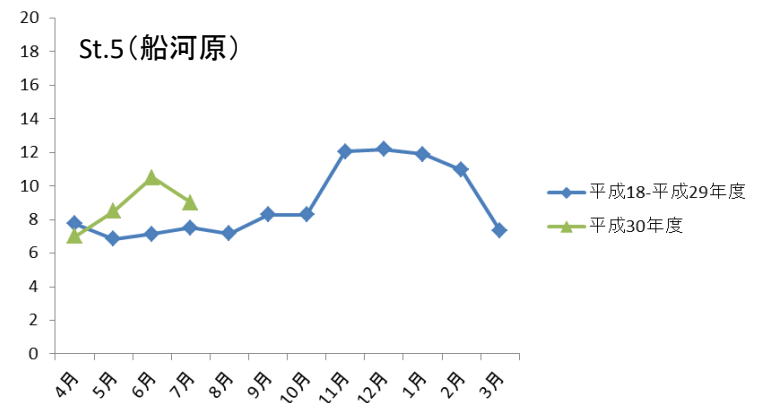
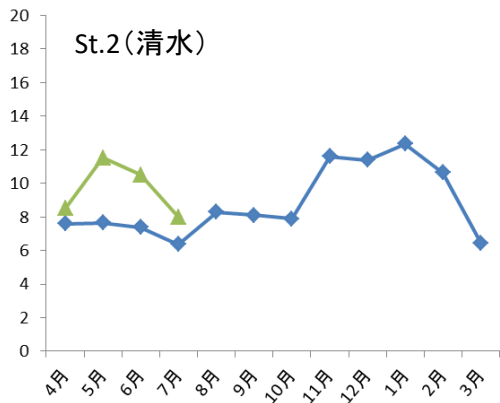
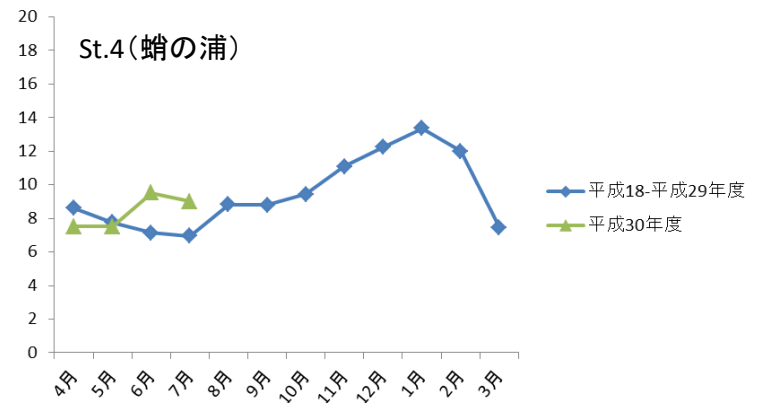
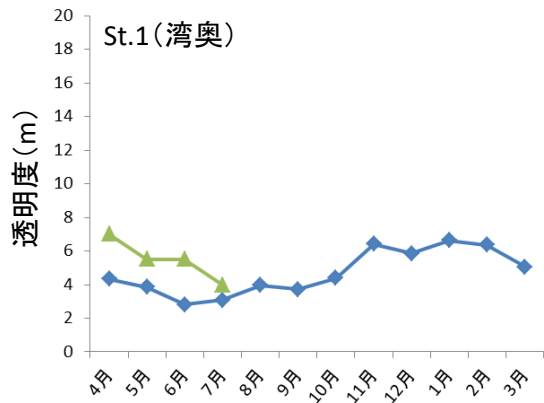


図2 透明度の推移

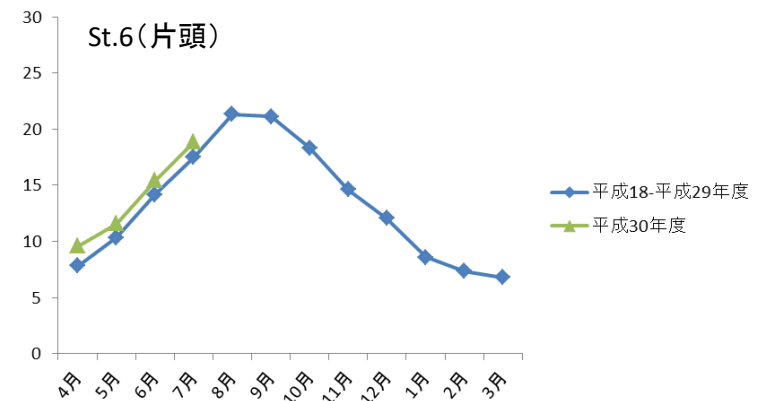
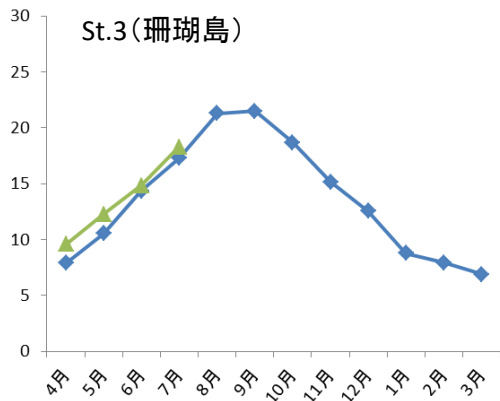
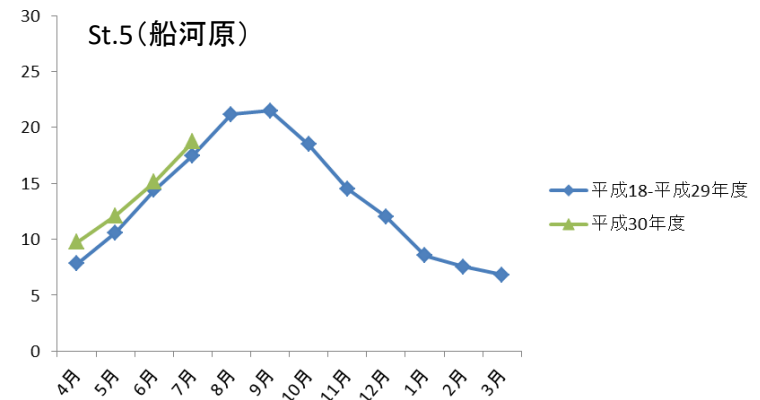
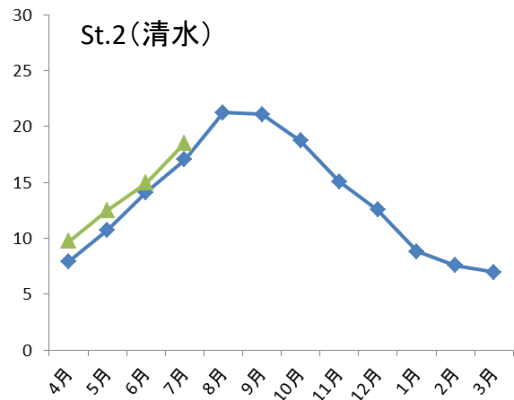
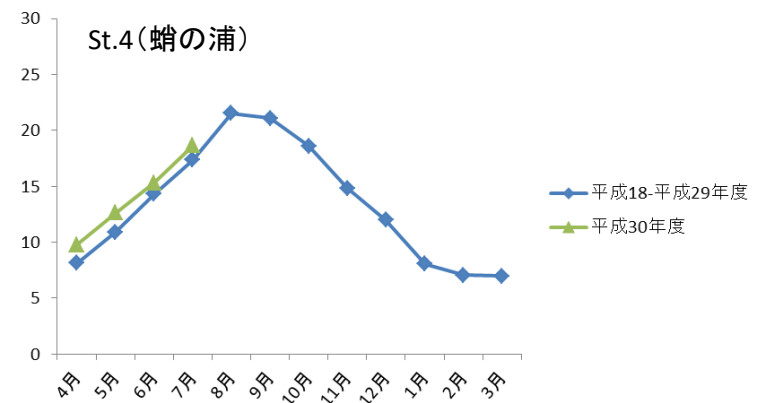
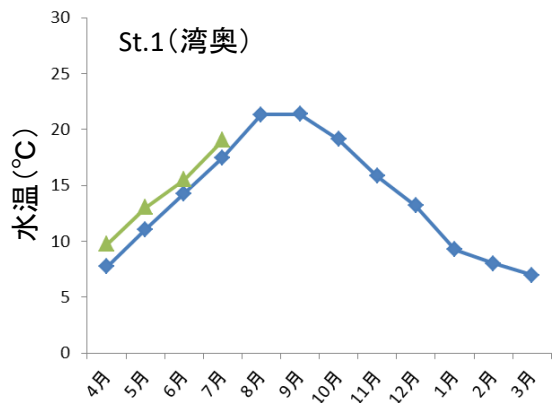


図3 水深2.5mの水温の推移

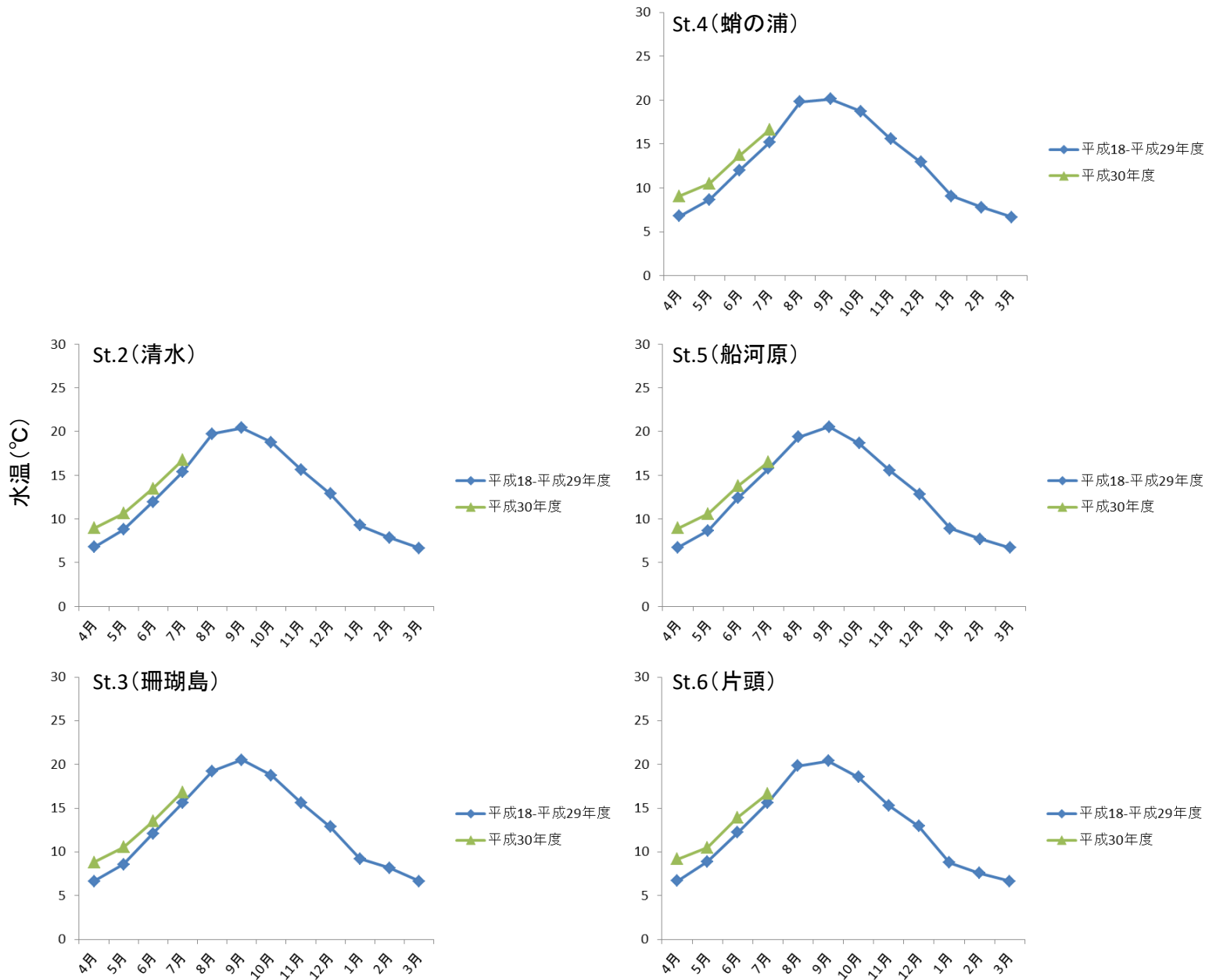
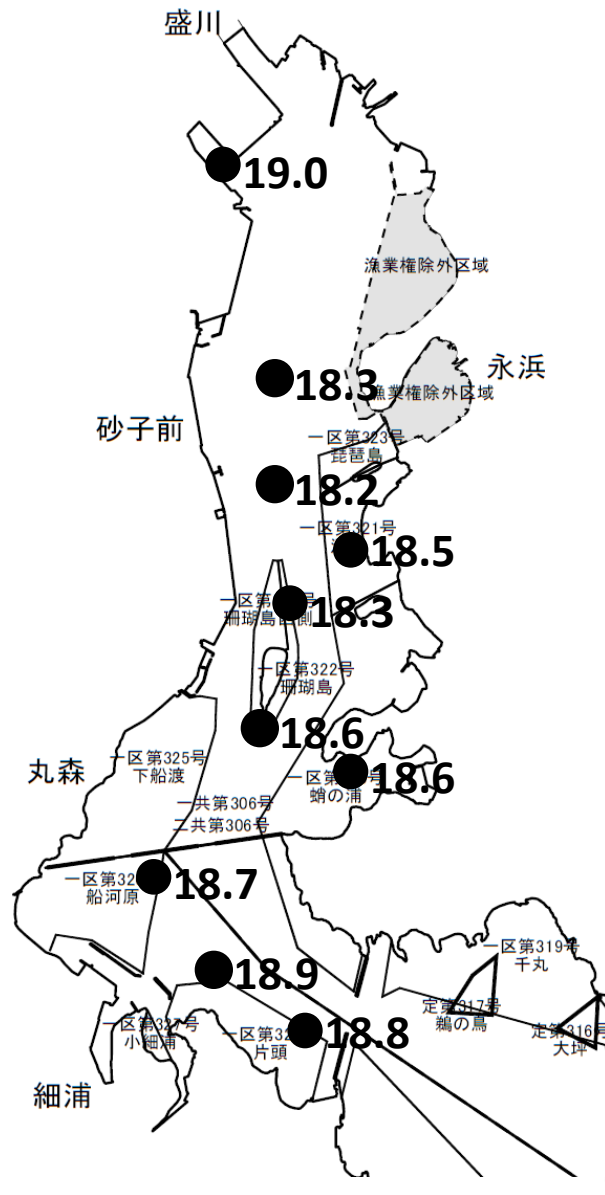


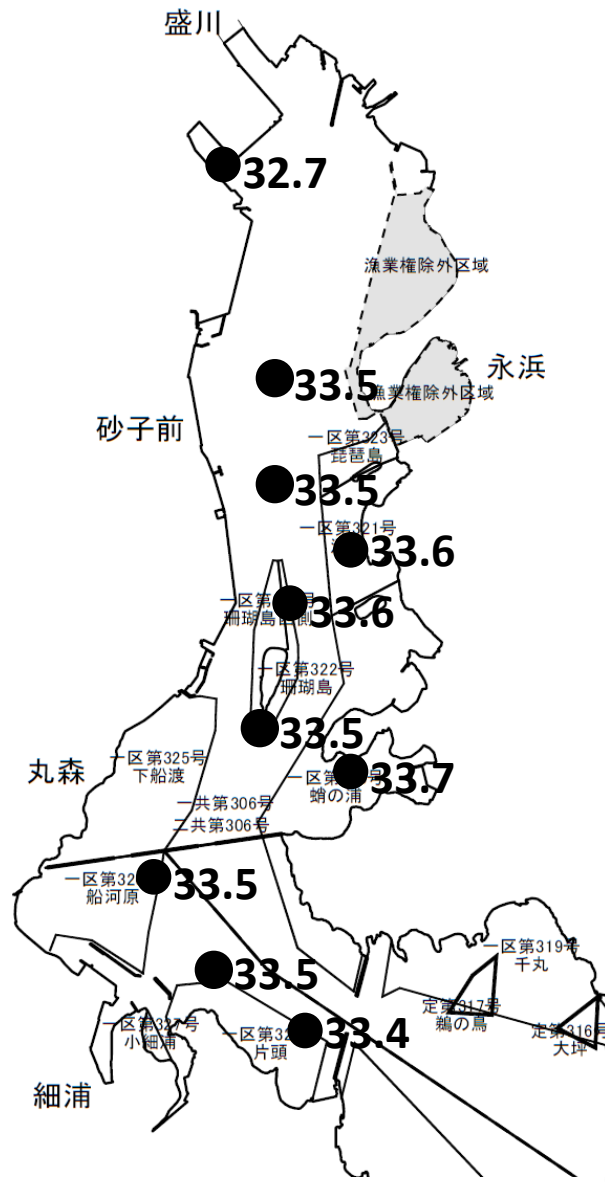
図4 水深10mの水温の推移



©岩手県（漁業権連絡図）

図5 水深2.5mの水温の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨や気温の影響を受けて湾内の水温は変化する。



©岩手県（漁業権連絡図）

図6 水深2.5mの塩分の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨の影響を受けて湾内の塩分は変化する。

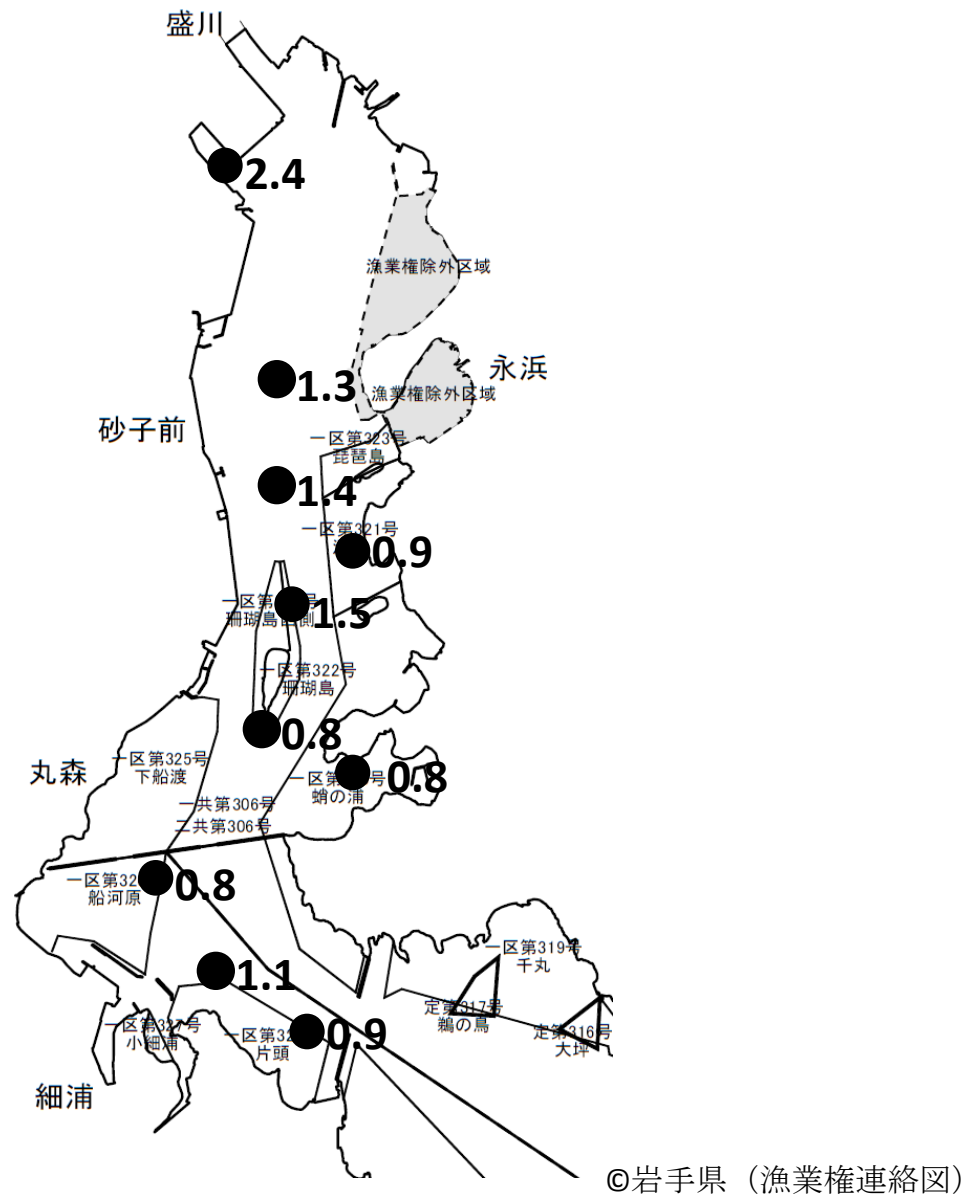


図7 水深2.5mのクロロフィルの分布

※クロロフィルは植物プランクトン量の指標であり、植物プランクトンは二枚貝やホヤ等の餌となる。